

平成21年度宮古群島病害虫発生予報第4号(7月予報)

7月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	30	30	30
平 年 並	50	30	40
低い(少ない)	20	40	30

(平成21年6月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	28.5	31.4	26.2	137.9	246.7

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

7月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

アオドウガネの防除対策

- a 6月の予察灯への日当たり誘殺成虫数は、16頭(前年37頭、平年30頭)とやや少なかった。
- b 6月の掘取り調査の結果、株あたり幼虫数は0頭(前年0頭、平年0.7頭)であった。
- c 5～7月は成虫の発生時期にあたり、特に6月下旬から7月上旬は成虫の発生ピークであることから、誘殺灯の保全・管理を徹底する。
- d 6～7月は幼虫の防除適期(1～2齢期)にあたるので、例年被害の多い地域では防除適期を逸しないようにする。

メイチュウ類の防除対策

- a 6月中旬の春植における芯枯茎率は5.1%(前年8.9%、平年3.9%)と平年並であった。
- b 6月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップ調査によると日当たりトラップ当たりの誘殺数は52.5頭(前年45.8頭、平年37.2頭)と平年並であった。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、食入初期の防除に重点をおく。

野その防除対策

- a 6月上旬の見取り調査の結果、調査した11圃場中1圃場(池間地域)で野その被害が見られ、被害茎率は0.3%であった。
- b 宮古島市及び製糖工場に、池間地域の一部の農家から被害の報告が届いている。
- c 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- d 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- e 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。